

## 第8回 全国バズ学習研究集会

# 望ましい人間関係を育てるバズ学習

— 学習指導と生活指導の一体化をめざして —

高知県安芸郡奈半利町立奈半利中学校

1. 基本的なねらいと考え方
2. 一日・週の生活の流れを追求し、内容を充実させる
3. 指導上の留意点
4. 厳しさや暖かさのある集団作り
5. 班日誌を通じたホーム指導

### 〔一〕 基本的なねらいと考え方

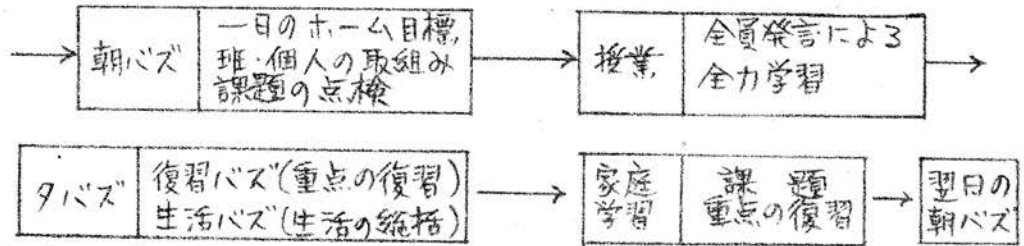
私達は昭和42年度途中よりバズ学習研究の方向を確認し、以来約9年を経過した。その間、研究と成果は高まりと停滞を見せることがあつたが波のようであつたが、全体として徐々にではあるが前進しているものと考えている。私達の基本的な考え方は次の通りである。

- ① 学力向上と生活指導の一体化である。学力の向上が人間性の向上につながらなければ本物の教育ではない。この両者を並行的なねらいとしてとらえる。
- ② そのために教師側としては、学習指導と生活指導を一体化した指導を推進する。
- ③ 学習は生徒自身のものであり、教師にやらされるものではない。という自覚を生徒が持ち、生きたバズが行われるようその活動を促す。これによって一人の落伍者も学級の中から作らない。

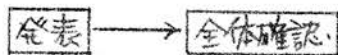
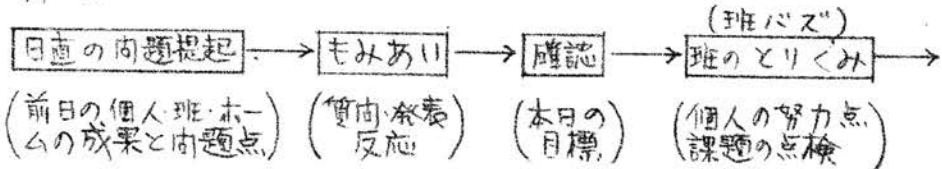
### 〔二〕 一日・週の生活の流れを追求し、内容を充実させる。

生徒が自己批判・相互批判・激励・要求などの活動を積極的に仕組んで支えあい、厳しく暖かく望ましい人間関係を高め、全員が全力で学校生活に取り組む。学習・生活共に一人でも落伍者を出さない班・ホーム作りをめざすため本校では一人一人、班・ホームが一日の生活についての目標と課題を持ち、自分達の課題点・克服する筋道を明らかにし、それを個人・集団の力で達成

する方向で取り組むことを考え、学校生活に主体的に参加することを目標とし、次のように朝バスから学習・夕バス・家庭学習に至る一日の学校生活の流れを考え実践している。

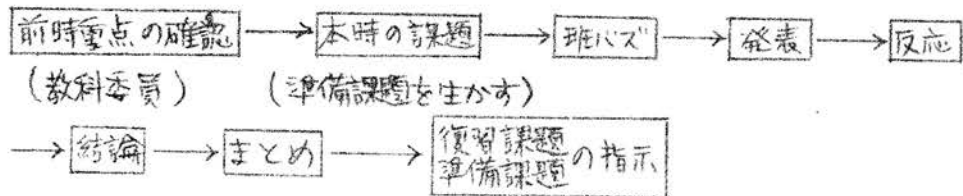


(1) 朝バス



日直が前日の学習・生活の総括の上に立って、個人・班・ホームの一日の生活の成果と問題点を明らかにし、本日のホーム目標を学習・生活の両面で提案し、これに対しホーム全員でそれぞれ「よいかどうか」もみあいをして目標を決定し確認する。次にこの目標を達成するため各班で「どう取り組むか、全員発言による班バス」で生徒の主体性を呼びおこしながら班全体の取組み方針と方針を決定し、更にそれを達成するための個人の一日の努力点・課題を確認する。不十分な者ややって来ない者に対してはその理由を明らかにし、批判すべき点は批判して、その教科の時間までに休み時間等を利用して可能なことはやるように班で援助する計画を立てる。各班の取組み・課題の点検が終わると各班はその内容(班の取組み方針など班バスの内容)を全体に発表し、ホーム全体で確認する。このようにホーム目標・班の方針・個人の努力点が一日の生活・学習の課題として朝バスで決定され、個人・班はそれを達成するための努力をする出発点となっている。

(2) 授業 (全員発言による全力学習)



本時の課題(重点)を明らかにし、それを解決するために手がかりになる必要な事項については、前時に準備課題として与えておき、生徒は家庭学習でやってくる。(朝バズで点検)授業の開始と同時に教科委員が前時の重点をまとめて発表する。その方法には①教科委員自身が説明する、②発言板をとった班に発表させる、③簡単な練習やドリル的なものをさせるなどいろいろである。

次に本時の課題を中心に班バズ(個人思考→集団思考)を行い、班の発表とそれに対する各班からの反応と教師のリード(発表の整理、方向づけ等)によって結論へ導く。教師は最後に本時の重点につき締めくくりを行ない次時の課題(重点)に必要な準備課題を与える。もちろん教材内容により教師の説明中心になる学習の場合もある。しかしいずれの場合も生徒全員が発言することを目標にしている。(1人が1日に2回以上発言する。発言が少数者にかたよらない)そして理解の三段階をめざす。

①「わかりました」……わかったような気がする、不確しかは理解

②「言えます」……バズでここまで全員を高めたい。

③「解説できる」……わかりやすく自分の言葉で解説できるようにする。能力のある生徒に要求する

### (3) タバズ

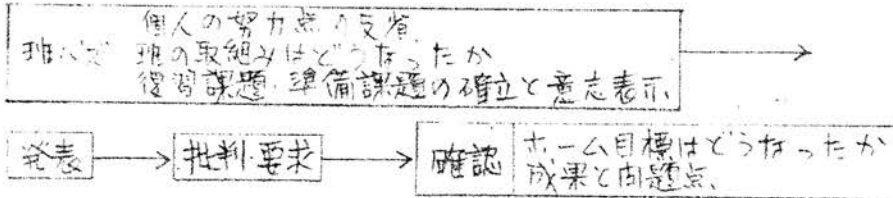
#### ① 復習バズ(30分)

教科委員は授業が終ってから復習バズの時間までに、本日の学習内容の重点の要約を「理解すべきもの」「暗記すべきもの」「ドリルすべきもの」の三段階に分けて黒板に記入してクラスに発表する。各班は班長のリードによって、まず個人思考、続いて集団思考で要約・質問を整理し、所定の時間が終わった時、質問があれば教科委員に問いかける。教科委員は自らが答える時もあり、又全体の問題としてクラス全体に考えさせる場合もある。それぞれの質問や反応によって要約のまとめがクラス全員のものになったと判断できた場合、あらかじめ黒板の裏に記入してあった問題を全員に提出し、到達度を判定する。最後に家庭ごとの一人一人の復習課題を確認して終る。(この間一教科約15分)このようにして、一日に二教科総復習を実施している。

復習バズを徹底させることは、落ちこぼれを作らない上で重要なものを含んでいるが、この意義に当たっては次の点に關する取組みが特に必要である。

- ア. 毎時間の授業の中で、教科内容の重点を十分生徒が理解すること。
- イ. 教科担任が復習バズのしかたを十分生徒に指導する。
- ウ. 教科委員が重点を十分に把握するよう教科担任との連絡を密にする。
- エ. 毎年の教員異動で何人かの教師の入出がわりがあるが、新しく赴任して来た者も、古くから在任している者も、互いに研究に努め、全員がバズの理論と方法を十分に学ぶこと。

② 生活バズ (一日の生活の総括)



復習バズ終了後、班バズで確認されたホーム目標、班、個人の取組み、努力点が一日の生活を通してどうなったかを総括する。まず班バズで、個人の努力点がどう達成されたのか、班で一人一人の結果を確認し、班全体の取組みについての成果と問題点を明らかにし、その理由及び今後の対策などについて話合う。もちろん、班内の批判活動が大切にされ、全員が発言する。又今日の復習課題と翌日の学習の準備課題を確実し、それについて一人一人がどうやるのかの意志表示を行ない、班で確認する。次に各班の総括事項を全体に発表し、他の班より批判・要求・評価などが行なわれ、日直が一日のホーム目標はどうなったのか、その成果と問題点をまとめ、全体で確認し、翌日のホーム目標の手がかりとし、一日の生活をいりくくりとする。なお問題その他があれば、復習バズをやめてその問題解決のために生活バズだけを行なう時もある。

(4) 家庭学習

復習課題に従い、その重点を理解・暗記・ドリル等、内容により復習を行い定着させると共に、あたえられた準備課題を、教科書、辞書、参考書、学校図書館等を利用して行う。本校では最低1日2時間の家庭学習をめどとし、質量共に充実した内容をめざしている。

[三] 指導上の留意点

学習面で①「あかす授業」をどう組織するか。

もりたくさんの教科内容を検討し、バズ学習に組み入れて行く。そのために教師側の徹底した教材研究、週1回の教科会(同じ教科を持つ教師どうしの研究組織)の充実、授業研究の重視。

② 指導に対する生徒の要求を引出し、それに対応すると共に、生徒を如何に自主的に活動させるかの研究

③ おくれている生徒に対する教師の配慮と班のとりくみ

④ 学習規律の徹底「聞く」「話す」「発表」のけじめと態度の確立

生活面では、差別の現実に対処し、集団の力をどうつけるか、そのために

① 生徒の心の扉を更に大きく開かせ、教師とのつながりを大きくする。

② 班長・教科委員などのリーダーの指導を徹底する。クラス内の学習・生活の核として重要な存在であり、ホーム担任、教科担任との連絡を密にし、彼らがその責任を果たせるよう、十分な指導・助言を与え相談にのる。毎週木曜日に定期的な班長会を設定している。

③ 「どうして」「何のために」の向題意識をたえず子供達に持たせる。

④ ホーム・班・各係の仕事と徹底させる。

#### (四) 厳しさと暖かさのある集団作り

クラス全体のふんいきが活気にあふれ、学習や生活に自主的・意欲的にとり組むため、主体的な活動を組織するため、小集団としての班、それらを統合したクラスの充実した集団作りが不可欠である。そのために、次のような留意点を考えている。

① 学年教師集団の意志統一を確保にし、生徒の要求を吸い上げ正しく受けとめ、成果を正しく評価し、次の励望を与え、教師と生徒の人間関係を高める。

② 班競争を積極的にしくむ。このことは集団の望を高め、その中で個人個人が成長し、それが更に集団の成長を促すこととなる。そのためには、目標をはっきりし、取組みのてだてができてやすく、点検評価が明らかなるもので、各班の前進的な競争をしくむ。

③ 生徒会目標が全ホームで積極的にとりくまゆるために、毎週の生徒会目標は一つの学期内を見通したものでし、尚生徒達がとりくむ上で、具体的わかりやすく、従って評価しやすく、取組みは成果が上がり易いものを設定する。なお取組みの過程で個人・班がどう民主的に成長して行くかに視点を置いて評価する。

#### (五) 班日誌を通してのホーム指導

ホーム・班の中で、仲間としてお互いが尊重しあい、認めあい、批判活動や要求活動をやる中で、温かくはげまし、助けあい班・ホームの解放をめざし、生徒相互間、教師と生徒間の人間関係を作る上で、班日誌はすばらしい武器と言える。以下、この点についてふれてみた。

(1) 班日誌を書く目的

- ① 全員発言学習を高めるために、人間関係を密にし、ホーム・班の解放をめざす。
- ② 班の成果や問題点を客観的にとらえ、班全体で確認する。
- ③ 班内の個人の問題を班全体の問題としてとらえ、集団思考、班討議により方向づけをし、解決する。
- ④ 学級目標、班目標を追求しながら、全員発言による全学習や生活面の点検をする。
- ⑤ 仲間に対する批判活動、要求活動を通して、班の向上をはかる。
- ⑥ 自らの意見、感想などを書くことにより、自己の変革、班の向上に役立てる。
- ⑦ 朝バス、授業中のバス、夕バスの状態を教師側として把握できる。
- ⑧ 教師や学校に対する生徒の要求により、教師、学校側の自己反省の資料となる。
- ⑨ 生徒と生徒、教師と生徒の血の通った生きた人間関係を作る。

(2) 班日誌を書いてきた上での成果

- ① 班日誌が自分たちの学習や生活を高めるために欠く事のできないものであるという気持ちが定着し、書く喜びを味わうようになった。
- ② なんでも自由に書ける雰囲気は班、ホームにできている。
- ③ 班、班員の進歩した点や問題点を正確につかみ、評価や批判ができるようになってきた。
- ④ 班内での批判、他の班を批判することによって、それを学ぶ姿勢が高まり、ホーム全体の人間関係がよくなってきた。
- ⑤ ホーム、班の質が高まるにつれて、教師の要求もだんだん高くなるが、生徒たちはそれを受けとめ、真剣にそのことを追求する姿勢ができてきた。内容面の例をあげると、班の問題点、人間関係の「アヤ」などに鋭くメスを入れ、それを解決する方向での意見や提案が多く出されている。また、鋭い分析もされている。
- ⑥ 教師の教え方や、仲間の学習や生活に対する要求が積極的に出されるようになり、要求されたことを正しく受けとめ自己反省するようになっている。